



さあ、答え合わせをしよう！

第34週目 3/15 行ってみよう～山形県(やまがたけん)からの出題

※ココを見てね!▶行ってみよう～山形県(やまがたけん)

1. 国内で一番大きな土偶(どぐう)がみつかりました。その名前は？

正解:①縄文(じょうもん)の女神(めがみ)

国内最大の土偶(どぐう)は、高さ45cm、重さ3.16kgと、まるで人間の赤ちゃんのような大きさ！完全な形で見つかり、国宝に指定されました。正解は「お宝ベスト5」3つ目、西ノ前遺跡(にしのみえいせき)から出土(しゅつど)した①縄文(じょうもん)の女神(めがみ)です。「めがみちゃん」の愛称(あいしょう)で、ゆるキャラとしても親(した)しまれています。ちなみに、「子宝(こだから)の女神(めがみ)」は、山梨県(やまなしけん)の鋳物師屋遺跡(いもじやいせき)から出土(しゅつど)した国の重要文化財(くにしていじゅうようぶんかざい)です。「仮面(かめん)の女神(めがみ)」は、長野県(ながのけん)の中ッ原遺跡(なかっぱらいせき)から出土(しゅつど)した国宝。ぜひ本物に会いに行ってくださいね。

2. 山形県(やまがたけん)の最上川流域(もがみがわりゅういき)では、石器(せっき)づくりに適(てき)した石が採(と)れます。それは、何？

正解:②珪質頁岩(けいしつげつがん)

山形県(やまがたけん)のページをみれば、その特徴(とくちょう)に書かれていますね。正解は、②珪質頁岩(けいしつげつがん)です。これは、海底(かいてい)にたまった泥岩(でいがん)に、あとから珪酸(けいさん)という成分(せいぶん)がしみ込んで、とても硬(かた)くなった堆積岩(たいせきがん)のこと。丈夫(じょうぶ)なので、石器(せっき)に使(つか)われました。

3. お仲間遺跡(おなかまいせき)から出土(しゅつど)したのを見ると、あるものが、どうやって作られたかがわかります。さて、それは何かな？

正解:③石器(せっき)づくり

「お宝ベスト5」1つ目の写真を見てください。これは、接合資料(せつごうしりょう)とよばれる、くっついた石器(せっき)です。石器(せっき)を作るには、大きな石を少しずつ割(わ)って小さな石にして、それをまた割(わ)って形をととのえていく。そうしたことがわかる貴重(きちょう)なものがみつかりました。正解は、③石器(せっき)づくり。料理(りょうり)も、服(ふく)も、道具(どうぐ)もできあがったのを見るだけでなく、それが、どうやって作られたかを調べると、完成(かんせい)するまでの工夫(くふう)のあとが見えてきます。いろんなものに感謝(かんしゃ)して、食べたり、着たり、使ったりしたいものです。

4. 生石2遺跡(おいし2いせき)からは、北部九州の影響(えいきょう)をうけた土器(どき)もみつかりました。それは、何系といわれている？

正解:①遠賀川系(おんががわけい)

「お宝ベスト5」4つ目を読むと、わかりますね。砂川(すながわ)や最上川(もがみがわ)は、山形県(やまがたけん)にある川の名前です。ここでは北部九州の影響(えいきょう)をうけた土器(どき)としていることから、九州の川ですね。正解は①遠賀川系(おんががわけい)です。遠賀川(おんががわ)は、福岡県(ふくおかけん)の筑豊地方(ちくほうちほう)から北九州市(きたきゅうしゅうし)・中間市(なかまし)・遠賀郡(おんがぐん)を流れる一級河川(いっきゅうかせん)の名前です。

5. お花山1号墳(おはなやま1ごうふん)の墓(はか)は、どんな形をしていましたか？

正解:③円墳(えんぷん)

お花山1号墳(おはなやま1ごうふん)からは、たくさんのアクセサリーのほか、「銅鏡(どうきょう)」が1枚見つかりました。墓(はか)の墳丘(ふんきゅう)は失(うしな)われていましたが、はっきりとわかります。考古学(こうこがく)の研究者(けんきゅうしゃ)や専門家(せんもんか)たちが、どんな墓(はか)だったかを調べるからです。正解は、③円墳(えんぷん)です。